

サケの不思議に

せまる

小学校四年生からの 手紙への返事

はじめまして。

北海道に住んでいるカメラマンの
稗田一俊です。

お手紙をありがとうございます。

そして、僕の本を読んでくれてあ
りがとうございます。

まず、僕がサケを撮影した場所は、

北海道南部八雲町、渡島半島の太平
洋側の噴火湾に注ぐ遊楽部川です。

そして、僕は遊楽部川のほとりに住
んでいます。

中國ちええさんがサケの不思議さを
感じたのと同じように、僕もはじめ
てサケを見たとき、こんな大きな魚
が川の上流にまでこのぼり、浅いこ
ろで産卵することがとても不思議で
なりませんでした。この川にはたく
さんの枝わかれした支流があります
が、ほかの支流に迷いこむことなく、
自分の生まれた支流に入り、しかも、
上流のある決まった場所にたどり着
くのですが、その場所よりも上流に
のぼることもないのですから…、と
ても不思議な習性だと思いました。
そう、その秘密は水の「におい」

にあったんですね。つまり、サケが
育ったわき水は、あるきまった場所
にだけ湧（わ）き出しているのです。
僕たちには区別つかない水でも、
サケはちゃんと区別できる能力をも
っています。しかも、ごくごくわずか
な水の「におい」を区別できること
は、これはいへんな能力だと思
います。

さて、産卵が終わったサケは死
んでしまうのですが…じつは、これが
大変重要な意味をもっているのです。
死んだサケはいつたいどうなるの
でしょうか…想像することができま
すか…？

僕も、川でたくさんサケが死
んでいるのを見て、「いつたいどうな
るのかな…？」と疑問を持ちました。
でも、春にはすっかり無くなって
います。

北国では、春になると冬の間につ
もった雪がとけて流れ出します。つ
まり、雪どけ水が川に集まり、大増
水をするのです。だから、春の大増
水で、すべての死んだサケが流され
てしまうのかな…と思っていました。
ところが、春の前、大増水の前に、
死んだサケがすっかり無くなってし
まうのです。「大増水で流されるの
でなければ、いつたいどうして無
くなるのだろうか…？」

僕は不思議に思いました。

そこで、冬の間、観察をすることにしました。そうしてわかったことは、ヒグマやキタキツネ、オオウシやオジロワシ、マガモやオオハクチョウ、ミヤマカケスなど多くの動物たちが食べていたことです。

また、食べられてバラバラになったサケは、水の中ではウグイなどの魚やスジエビやモクズガニ、それから、カゲロウやユスリカなどの水生昆虫の餌になっていました。もっともっと小さくなって、水にとけこんだものは、川水と一緒に海まで流れて、海の小さな動物、つまり、プランクトンなどの餌になっていたのです。

川で死んだサケがきれいに消えたわけは（たくさんの生きものたちがすべて食べてきたのです。これは観察の大きな成果でした）。

さて、水の中の水生昆虫たちは春先になると、羽のある親になって川面を飛び回ります。実はそのころ、サケの子どもたちは川に泳ぎだして自分で餌を取るようになっていきます。その餌がこれらの水生昆虫なのです。サケの親は死んでしまったのだけれども、子どもたちが食べる水生昆虫を育てていたと考えることができます。

どうですか、サケの親が自分の子

どもたちが食べる餌づくりをしているようなのですよね。

もう一つ、面白いことがあります。ヒグマやキタキツネ、オオウシやオジロワシなど動物たちは、サケを食べた後に、川のまわりで土の上にウンチを落とします。

きたないかな？、でも、このウンチはよく考えると、草や木の栄養になるんですよ。つまり、サケは草や木を育てる栄養にもなっていたというわけです。

僕もこれにはおどろきました。サケは川を下ってから、北太平洋までいって、そこで大きく育ちます。つまり、大きなサケの体には北太平洋の栄養がたまっているわけです。

そして、川に戻ってきたサケは北太平洋の栄養を持ち帰ったことになります。だから、川のまわりでサケを食べた動物たちや草や木は、北太平洋の栄養をこちそうになっているわけです。

中でも、オオウシやオジロワシはロシア大陸やカムチャッカ半島からやって来ます。そして、春にはロシア大陸やカムチャッカ半島に帰って行きますから、サケの栄養はロシア大陸やカムチャッカ半島まで持って行かれることになりました。

「どうして死んだサケが無くなっちゃうのかな？」という疑問から

観察をはじめたのですが、思いがけず、サケがはぐくむ生きものたちのつながりを知ることになりました。そして、生きものたちのつながりがこんなにも広いものだったのかと：あらためておどろかされたのです。

どうですか？、死んだサケにはたくさんの生きものたちを支える、重要な役割があったのです。

一生懸命に生きていたサケは、体がぼろぼろになって弱っても、とてもきれいでやさしい目をしています。そんなサケを見てみると、とっても満足そうに、一生を終えようとしているように思えてきます。川に横たわったサケに「ご苦労さん、ありがとう」と声をかけたくくなります。

中園ちえさんもいつかサケのぼる川をたずねて、ほんもののサケに出あってくださいな。

また、身近な自然をしっかりと観察しているといろいろなことがわかってくると思

います。自然って、おもしろ

いことをきくとたくさんたくさん教えてくれると思います。

僕はサケから川のことやいろんな動物のことなど、たくさんのことを教えてもらっています。だから、サケは僕の先生っていうわけ。

そんな僕が尊敬する「サケ先生」に興味をいだいてくれて、ほんとうにありがとう。

また、お手紙を頂き、とてもうれしくなりました。

遊楽部川はすっかり雪景色です。白い雪が舞い落ちる川を、まだまだたくさんサケがのぼっています。それではお元気で、さようなら。

(稗田 一俊)

